

戦国武将の魂が眠る 北陸の城

日本各地には数万の城があったとみられ、北陸でもごくごく小さな規模の城を含めると数百の城が存在していたそうです。現在はそのほとんどの遺構を見ることができませんが、復元されたり、公園や登山道として整備したりと見学できる城跡が点在しています。

コロナ禍のまん延により、予定していました「白山麓グルメ」の取材が難しくなり、変更せざるを得ない状況となりました。そこで、今回は【北陸の城】を取り上げます。屋外から眺める城の景観や山あいの散策を楽しめる城跡などをご紹介。今、私たちが生きている世の礎を築いた、戦国時代や江戸時代に思いを馳せて出かけてみましょう。

(※各城を紹介する文中にある「日本100名城」と「続日本100名城」とは、公益財団法人日本城郭協会が定めた日本の城のことです)

町を見守り続ける現存の木造天守、丸岡城

現存する木造天守の中でも古い建築様式をもつ丸岡城。織田信長の命で、柴田勝家の甥である柴田勝豊が一向一揆の備えとして築いた城で、築城年は天正4年（1576）。当初は本丸や二の丸があつたそうで、城主はその後何度も替わり、最後は有馬家が8代にわたって居城とした。現在は二層三階の天守が残るのみ。昭和9年（1934）に国宝に指定されるも、昭和23年（1948）の福井地震で倒壊。その後7年後に修復再建され、現在は国指定重要文化財。野面積みの石垣や石瓦で葺いた屋根など古風で簡素な城は、日本100名城にも選ばれている。敷地内には丸岡藩の城主や歴史などを紹介する歴史民俗資料館が併設されているので、併せて訪れたい。



歴史民俗資料館の手前は鯉が泳ぐ水辺の公園



急勾配の階段なのでロープを使って上り降り



地震の際の古材を使うなど歴史に忠実に再建された天守。城内には石落とし窓や鉄砲狭間もある

城下町の散策も楽しめる越前大野城

標高約170mの市街地から80mほど登った亀山山頂に立つ大野城。城下は碁盤の目のように築かれた町並みが特徴で、北陸の小京都ともよばれている。織田信長の家臣、金森長近が最初の城主で、天正4年(1576)から4年の歳月をかけて築城。幾度となく城主が替わり、最後は土井家が8代にわたり治めていた。最近では、雲海の中に城郭が浮かび上がるよう見える幻想的な風景が見られると、「天空の城」として脚光を浴びている(※撮影スポットは戌山城址山頂)。現在の城郭は昭和43年(1968)の再建で、4階の回廊からは大野の町並みを見渡すことができる。城内には歴代藩主の遺品などを展示している。続日本100名城。南登り口付近には大野市民俗資料館がある。



野面積みの強固な石垣の上に立つ天守。亀山周辺には一般公開している武家屋敷もある



町並み、山並みが望める天守最上階



城への登り口は4カ所あり、天守までは徒歩約15~20分



天守へと続く武者登りは非常に急勾配

福井県福井市
福井城

越前松平家として十七代にわたり繁栄、福井城

福井駅の北約300mにあり、現在は内堀に囲まれて福井県庁が立つ。福井城は、徳川家康の次男であり二代将軍秀忠の兄、結城秀康が築城した平城だ。慶長11年(1606)の入城以降、270年もの間越前松平家の居城となつた。福井城の天守は名古屋城に次ぐ大きさだったそうだが寛文9年(1669)に焼失、再建はされなかつた。遺構として天守台石垣を見ることができ、そばには福井の名の由来となつた井戸「福の井」の跡もある。2018年に復元された堀に架かる御廊下橋を渡り、山里口御門をくぐればすぐ左手、石段を上れば石垣と井戸跡を見ることができる。堀に沿つて散策でき、ところどころに説明板もあるのでぐるっと一周してみましょう。続日本100名城。



左が大天守台の石垣、右が小天守台の石垣。大天守は4層5階建ての壮大なものだった



静かに水をたたえる内堀に復元された御廊下橋と山里口御門



櫓門と棟門の2つからなる山里口御門。写真は櫓門



TEL 0776-20-5348
(福井市観光案内所)
住所 福井県福井市大手3-17-1
営業時間 料金 休見学自由
料金 Pなし



TEL 0779-66-1111(大野市観光交流課)
住所 福井県大野市城町3-109
営業時間 9時~17時(10・11月は~16時)
料金 入城300円
休業日 12月~3月
料金 P100台

戦国最強の豪族、朝倉氏が構えた一乗谷城

福井市の東南約10km、一乗谷川に沿って細長く連なる谷に城下町があった。天正元年(1573)、織田信長軍に焼き尽くされてしまふまでの百年余り、朝倉氏が5代にわたり栄華を極めた都、一乗谷城下だ。およそ400年の時を経て城下町の発掘調査が行われ、建物の礎石や井戸の跡、土壙、庭の石組みなどを整備。およそ200mの通りに武家屋敷や町家、商家などを再現した復原町並も見どころ。山裾に広がる広大な敷地には、朝倉義景館跡や諏訪館跡庭園なども発掘され、散策コースに。さて城はとくと、朝倉義景館の背後の山の山頂に造られた山城であつたが、実際には使われなかつたそうだ。城跡へは登山道があり、徒歩約1時間で山頂へ。説明板などが整備されている。日本100名城。



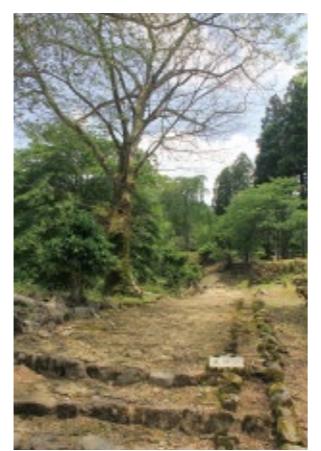
裏山を借景とした諏訪館跡庭園



約1万人が暮らしたという城下を再現



朝倉義景館跡の全貌。発掘で建物の礎石や庭園の池跡(写真手前)なども見つかっている



戦国時代に人々が歩いた道路の跡

石川県七尾市
七尾城

難攻不落といわれた大規模な山城、七尾城

戦国時代を象徴するかのような要塞として、また居城としても利便性の高い大規模な山城が築かれていた七尾城。標高約300mで

七尾湾を眼下におさめる好ロケーションだ。この地を選んだのは足利

一門の有力家臣畠山氏一族で、能登國守護として京の都より赴いてきた。明徳2年(1391)に七尾に

入り、その17年後に能登畠山家が創立。城を建てたのはその百年後ほどだが、天正5年(1577)には上杉謙信に滅ぼされている。居

城とした間は京から文化人を呼び宴も楽しんだそうで、京風の文化も息づいていたそうだ。その後前田利家が入城するも、すぐに山を

降りて平地に小丸山城を築城。現在は石垣が残るのみで、広大な敷地には本丸や二の丸などの跡があり、散策できるよう整備されて

いる。日本100名城。



斜面を整備し段々に石垣が積まれている。往時は杉林ではなく建物が並んでいた。国指定史跡

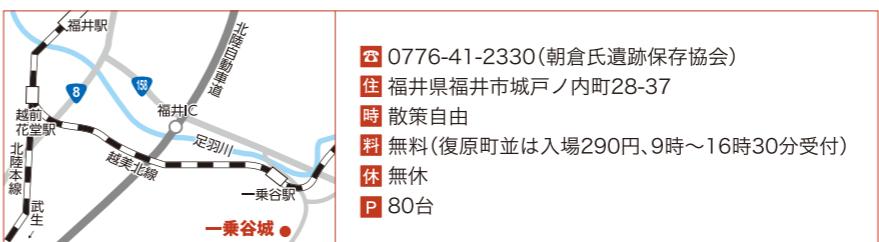


本丸へと続く石垣。登りきったら武士がいるかも

標高300m、本丸からの眺めは日本海と能登半島を見渡す絶景



☎ 0767-53-8437
(七尾市スポーツ・文化課)
住 石川県七尾市古府町、古屋敷町ほか
時 料休 見学自由
P 30台



☎ 0776-41-2330(朝倉氏遺跡保存協会)
住 福井県福井市城戸ノ内町28-37
時 散策自由
料 無料(復原町並は入場290円、9時~16時30分受付)
休 無休
P 80台

世界大戦で空襲を受けなかつた金沢には、古くからの遺構が数多く残る。といつても戦国時代は一向一揆の門徒衆が権力を握っており、金沢城があつた地は浄土真宗の尾山御坊が築かれていた。御坊が織田信長に攻め落とされた後、天正11年（1583）に前田利家が入城。茶の湯や能などを好んだ利家の意を継ぎ、歴代藩主も文化振興に力を注ぎ美意識が高い文化が開花していった。金沢城は、白漆喰の壁となまこ壁の美しいコントラストや優美な玉泉院丸庭園、風情ある兼六園など、雅な城下町のシンボルとして華やかな大名文化を反映。現在は石川門や三十間長屋などの遺構に加え、菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓・橋爪門、いまり堀、河北門、鼠多門などが復元されている。日本100名城。



公園として整備されている金沢城は国指定史跡。写真は橋爪門続櫓と橋爪門



城内の隨所に残る石垣も見もので石を積む技法もさまざま



城郭や玉泉院丸庭園などがライトアップされている



☎ 076-234-3800(金沢城・兼六園管理事務所)
住所 石川県金沢市丸の内1-1
時 7時～18時(10月16日～2月末日は8時～17時)
料 入場無料(菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓・橋爪門の内部見学は320円)
休 無休
P なし

石川県金沢市
金沢城

金沢文化の礎を築いた前田家の居城、金沢城



天明8年(1788)の再建の石門。金沢城の遺構の一つで、城下町金沢のシンボル

織田信長が朝倉義景や浅井長政などを滅ぼし、その勢いが越前から加賀に伸びてきた戦国時代。浄土真宗本願寺派（一向宗）の僧侶や門徒の農民らで構成される一向一揆衆が権力に対抗して起こした反乱の時代でもある。加賀は浄土真宗の布教が広まり農民の力が強く、加賀国守であつた富樫氏を滅ぼした地。その後織田信長の軍勢に鎮圧されるまでのおよそ百年間、「百姓の持たる国」として農民が加賀国を支配していた。鳥越城は天正元年（1573）に軍事拠点として築城され、加賀一向一揆の最大拠点尾山御坊が天正8年（1580）に陥落後はここが最後の拠点に。その後年に鳥越城も攻防戦の末落城した。平成13年（2001）に礎石や一部建物を復元整備。続日本100名城。



再建された石垣と木門(手前)と本丸門(奥)。山城の要塞らしく飾り気がなく機能的



隅櫓跡から眺める鳥越地区の田園風景と周囲の山々



容易に攻め込まれないように両脇を土塁で固めた中の丸門



☎ 076-254-8020
(鳥越一向一揆歴史館)
住 石川県白山市三坂町
時 料 休 見学自由
P 15台

石川県白山市
鳥越城

一向一揆の最後の拠点となつた要塞、**鳥越城**



見張り台が設けられている本丸門。本丸は鳥越山の頂上部にある。鳥越城は、近隣の二曲城とともに国史跡に指定されている

佐々成政や富山藩前田家の居城、富山城

市街地のほぼ中央に位置する平城で、天文12年(1543)に神保長職が命じて家臣の水越勝重によつて築城された。一向宗や武田信玄と懇意にしていたため、上杉謙信と幾度となく戦いを繰り返していたが、天正4年(1576)に落城。富山城は上杉謙信、続いて織田信長の手中に治められ、織田信長の命をうけ佐々成政が入城した。佐々成政は上杉勢を押さえる一方城の改修も重ねたが、本能寺の変以降は羽柴秀吉に攻められ降伏している。その後は前田利家が加賀、能登とともに越中も支配。利家の長男、前田利長が入城し、富山前田家は13代にわたり繁栄した。堀や石垣、土塁などが遺構として残り、昭和29年(1954)には3層4階建ての天守を建設。内部は富山市郷土博物館となつてゐる。



前田利長が改修したと伝わる富山城の石垣が遺構として見られる



4階の天守展望台からは市街地を一望できる



日没～22時までライトアップされる富山城の天守



実際には天守台はあったが天守は築かれなかつたようだ。博物館では前田利長が使用した高さ1m40cmの鯨兜が見もの